

編集後記

『人間科学』第13号をおとどけいたします。井本英一先生「臨死体験と文学」、有川康二先生は英語論文の“Tense, Subject, and Derivation”，出原博明先生「第42章の Isabel Archer — H. James 研究 —」，高橋ひとみ先生「大学生の体力と運動の実施状況について」，さらに，後藤邦夫先生の連載中の「“STS”あるいは『科学技術研究』についてII (2)」といった，じつにヴァリエティーに富んだ諸論文を投稿していただくことができました。雑誌の編集にかかわらせていただいた者としては，本当に，胸がわくわくしてくるくらい嬉しくなりました。皆様に心からの感謝をささげます。

ただし，喜んでばかりもいられませんでした。こっそりと，正直に白状してしまいますと，私の編集担当が長くなりすぎていることへの警告なのかもしれませんが，執筆者のなかに，私の“編集者としての能力”を試してみようとした方がおられたらしく，テキパキと事をすすめることはできませんでした。そのため，原稿はずいぶん早くにいただけたにもかかわらず，その後の印刷・校正の作業がおおはばにおくれてしまい，やむなく，9月30日の奥付となるハメになってしまいました。申し訳ありません。早くに原稿をいただいた先生方と読者の皆様に深くお詫びをいたします。

予想どおり，編集者としての能力も適正もないことを暴露してしまいましたが，幸いなことに，次の14号分についても，すでに多くの先生から「予約」をいただいておりますので，なんとか，がんばりたいと思っております。皆様，よろしく，ご支援ください。

(生瀬克己)